

麻生会長・山田地方分権推進特別委員会委員長記者会見概要

日 時 平成19年5月18日(金) 18:30～18:45

場 所 全国知事会知事室

(事務局)

- ・ それでは、麻生会長と山田京都府知事の会見を行います。まず会長からお願いします。

(麻生会長)

- ・ 今日の全国知事会議は、1つは、新しい知事が登場されました。新しい知事が出席して積極的に意見を述べてくれまして、良かったと思います。
- ・ 2番目には、骨太の方針に盛り込むべき事項、特に、税収の偏在是正についてどのように考えるべきかという実体的な議論であったわけです。大阪を始め4都府県提案が出され原案との関係で非常に多くの議論が提出されました。始めは相当意見の食い違いがあるかと思ったのですが、よく議論をしてみると、基本的な点についての認識は違ってなかった。具体的な表現の仕方についてこういう表現では危険すぎるのではないかということであったと思います。従って、皆さんの意見を入れた修正案を山田地方分権推進特別委員会委員長が作ってくれたわけですが、これは多くの意見を入れた形で作り我々の基本スタンスを固めることに成功したと言えます。
- ・ もう1つの点は、これと一体となったふるさと納税についての議論ですが、高く評価して、いわば税のあり方の一つの大きなエポックメイキングな提案であるという考え方と、これは本流にならないのではないかと、こればかりやっていたのでは本格的な偏在の是正策に結びつかないのではないかと、そういう意味では是非他の偏在是正策を忘れないようにしっかりやっていかなければならないという意見があったわけです。いずれにしても、ウェイトの置き方は、知事さんによってだいぶ違っていましたが、ふるさと納税制度は、共通項をとって検討していこうということでした。以上のとおりです。

(山田京都府知事)

- ・ ご存じのように、昨日開催した地方分権推進特別委員会において、骨太の方針に盛り込むべき事項の、税収の偏在是正の問題についてかなり意見があった中で、大阪府、東京都、愛知県、神奈川県から修正案を出していただいた。修正案の提出によって、論点が非常に明確になったのではないかと。私どものたたき台と出てきた修正案のおかげで、非常に議論が建設的なものになりました。知事さん方に対して心から感謝したい。
- ・ 出てきた背景としては、2つあります。1つは、三位一体の改革に代表されるように、我々の主張が部分的にとられて、結局すり替えられるのではないかとという危機感をみんな

持っていたということです。もう1点は、そうであってもやはりこの問題を都道府県間、地域間の対立にはいけないという想いがある中で、みんなが建設的な意見を出し合っただき、こういう案文になったのではないかと考えており、本当に有り難く思っています。

(質疑)

今日の議論の中心だった骨太の方針への提言の中で、ふるさと納税制度、今日の議論を踏まえて会長としての見解を改めて伺いたい。

(麻生会長)

- ・会長としてはともかく、どういう制度になるのかということは、非常に漠たる状況ですので、どういう目的で税制にするのかということから始まって、税の仕組みと基本的な地方税の考え方である応益税というものととの整合性をどう図っていくのかということ、きちんと検討していくということをやっていききたい。

今の関連で、具体的な検討について、地方税制小委員会などの機関で正式に始めていくという理解でいいのか。

(麻生会長)

- ・検討してます。

都道府県の間で向き合っ、お互いに顔を合わせて税収の偏在についてどう思うか、それぞれの考えをはっきりと述べたのは、全国知事会議の場が初めてという考え方でいいか。そういう場であったというのは、意義があったのではないと思うが。

(麻生会長)

- ・これは初めてですね。

ある意味考え方の違いがはっきりしたことは意味があると思うが。

(麻生会長)

- ・例えば偏在はあるということについて、税収の格差があるということについては、みんな認めたわけです。ただそれは、長期的に見た場合には本当に修正されない格差であるのかと。むしろ、だんだん本当は縮んでいるじゃないかというような実態認識の差というのはずいぶんあったように思います。

- ・もう1つは、格差、格差というが、税収格差よりもむしろ地方交付税が減らされたということがむしろ、これほどいわゆる大都市ではないところでも、県なりの切迫感を高めているのではないかというような議論もまた、非常に実態をよく見た議論の1つだった。
- ・全体としては、いわゆる大都市圏と地方、あるいは地方と地方の格差問題についての議論が相当率直な議論をして深まった。そういう意味では非常に大事な議論をやったと思います。

先ほど合意された骨太の方針に盛り込むべき事項については、いつ頃、どのような方法で政府に。

(麻生会長)

- ・経済財政諮問会議が、どういう手順で何をいつ頃議題にしながらとりまとめ作業に入るのかをよく見極めながら出していきたい。その場合に、全国知事会として出していくのか、地方六団体としての協調を図りながら出していくのかは、地方六団体側で十分調整しなければならない。

今回合意されたベースに、地方六団体にも理解を求めていくのか。これは提言書とか要望書とか、どういう形式で。

(麻生会長)

- ・どういう形式になるかというのは、もう少し、経済財政諮問会議の議論なり、意見提出のやり方についての向こう側の受け取り方を見極めなければならない。

今日、全国知事会議デビューをした東国原宮崎県知事に話を聞いたら、真剣な議論で勉強になったという一方、議論を尽くさなければならないのに、知事の出席率がちょっと悪いのではないかと、あれと思ったという感想を漏らし、今後いろんな議論をしていく上でもっと参加すべきではないかという感想を話したが。

(麻生会長)

- ・もっともな感想だと思います。できるだけたくさん出てきてもらいたい。今日は47人中32人の出席という割合でしたね。もっと出てきてもらいたいと思いますね。

(山田京都府知事)

- ・ただ、時期的に今は5月の臨時議会をやっている時期なんですね。統一地方選がありましたから。その関係があるので、そういう事情を踏まえて考えていただけると有り難いと思います。

(麻生会長)

- ・でもいい指摘ですね。

今日の文言修正を見る限り、今日の現状の中では中立的な表現にされて決着し、我々にもそのことはよく理解できたが、実は問題の本質はまだなんら解決されていない。麻生会長としては任期が4年あるが、地方税制の見直し、今の税源のあり方も含めて、これは地方側から政府税制調査会なり政府に対して、地方案として提案すべきだと思うか、あるいは、今日の議論を見ていてそれはなかなか容易なことではない、状況に応じてということなのか、どちらでしょうか。

(麻生会長)

- ・容易なことではないが、何も言わないのが一番いけない。地方側としての意見を出していかなければならない。

地方案としてまとめなければいけないと。

(麻生会長)

- ・そうです。

税源の入れ替えだとか、今日は厳しい表現は最初のところはあったが。

(麻生会長)

- ・具体的に税源入れ替え案を出すかどうかというのは、今日のような議論、いろんな慎重論もありますから、この段階で入った案を出すかどうかというのはちょっと言えない。地方から見た望ましい地方税制のあり方というのを我々は検討し、包括的な案になるのか、部分的な案という形で積み上げていくかということはあるが、いずれにしてもしっかり発言をしていかなければならない。

案としてまとめていきたいということですね。

(麻生会長)

- ・はい。

(山田京都府知事)

- ・今日の各県の知事さんの意見も、案としてまとめることに反対ではなくて、今の時点で

出すことの戦略的な考えを抱いて時期尚早ではないかと言っただけですから。そのところは、何か対立があってこういう形にしたのではなく、最初に出すとそちらばかりつまみ食いをされるという戦略的な話の中で出ているので、その方向はご理解いただきたい。